

勤務医負担軽減実績及び計画（札幌徳洲会病院）

1、これまでの取り組み及び今後の目標

全体の医師数としては、順調に増員されており一時的な増減はあるものの問題なく推移していると考えております。
しかしながら、内科等の勤務医師減少及び増員ができず、内科医師等の負担が増加していると考えます。
このような状況を踏まえ、看護部、その他医療関係職、事務職が協力し、特定行為看護師の育成、医師事務作業補助員の増員による
代行業務の拡充、診断書作成支援システムの導入、地域連携室の立ち上げ等を行い医師の負担軽減に努めてまいりました。
今後は更なる負担軽減を目指し、以下の計画のもと達成に向けた取り組みを行ってまいります。

2、実績

- 平成21年4月～ 地域連携室の立ち上げ
 - 平成21年7月～ 診断書作成支援システム(パピルス)導入
 - 平成21年7月～ 特定療養費の値上げ(420円→1,050円)
 - 平成23年4月～ 医師事務作業補助体制加算 25対1 立ち上げ
 - 平成26年4月～ 特定療養費の値上げ(1,050円→1,620円)
 - 平成27年4月～ 医師事務作業補助体制加算2 20対1 増員
 - 平成28年4月～ 医師事務作業補助体制加算1 20対1
- 平成29年 4月～ 医師事務作業補助体制加算1 15対1 増員
 - 平成30年 8月～ 特定療養費の値上げ(1,620円→2,160円)
 - 平成31年 4月～ 午前診外来受付時間変更(12:00→11:30)
 - 令和元年 10月～ 特定療養費の値上げ(2,160円→2,200円)
 - 令和 2年 1月～ 予約優先外来へ移行(全診療科)
 - 令和 2年 1月～ 予約センター立ち上げ
 - 令和 6年 11月～ AI電話導入(予約センター)

3、令和 8年3月現在の勤務医の勤務状況

	令和6年3月	令和7年3月	令和8年3月
1 常勤医師数	71名	70名	74名
2 非常勤医師数	10名	13名	16名
3 週平均勤務時間	51.1時間	52時間	42.4時間
4 週平均残業時間	4.4時間	4.5時間	8.8時間
5 平均当直回数	1.6/月	3.1/月	2.1/月

4、勤務医負担軽減目標及び達成状況

項目		現状	R8目標	達成状況	
				令和8年3月	令和9年3月 (目標)
医師と医療関係職、医療関係職と事務職員等における役割分担	診断書等の文書の作成	・システム導入は完全対応済。人員の質の向上を図る。	・人員の質の向上を図りつつ現状を維持する。	100%	100%
	主治医意見書の作成	・完全対応済。 現状を維持する。	・完全対応済。 現状を維持する。	100%	100%
	診療録及び処方箋の作成	・介入していない診療科にも対応していく	・依頼があれば、基本的には全ての診療科に対応。	80%	90%
	診察、検査予約	・AI電話を導入。(電話待ち時間、話し中増加傾向対策)	・AI電話の更なる効率化 ・院内予約ブース作成し 医師診療中の予約業務を減らす。 ・一部Web予約システムの導入。	85%	90%
	診療報酬明細書	・事務職にて完全対応済。	・今後も精度を上げていく。	100%	100%
	院内の物品の運搬・補充・患者の検査室等への移送	・看護補助者、事務職にて完全対応済。	・今後も事故等起こらないよう十分に配慮し行う。	100%	100%
	初診時の予診の実施	・多職種(看護師・クラーク・事務職)で対応が出来る様にした。予診精度の向上と、待ち時間短縮に努める。	・AI問診の導入などを積極的に取り入れ、さらなる予診精度の向上と、待ち時間短縮に努める。	90%	100%
	静脈採血等の実施	・依頼された採血等は全て行っている。 ・看護師のみではなく、臨床検査技師も行っている	・さらなる待ち時間短縮に努める。	100%	100%
	入院の説明の実施	・外来各科担当看護師が個別に全て行なっている。	・継続し行う。	100%	100%
	採血、検査についての説明	・待ち時間等の無いスムーズな説明ができる様にしていきたい。患者に理解しやすい説明を心がける。	・待ち時間等の無いスムーズな説明ができる様にしていきたい。検査説明の動画作成を更に進めていく。	80%	85%
	外来服薬指導	・外来投薬窓口にて服薬指導を行う ・外来腫瘍化学療法を受けている患者に対し服薬指導、検査値の確認と、検査オーダー(一部)の入力。 ・循環器外来にて、検査時の休薬等の説明。ポリファーマシーの推進 (上記業務はPBPMに基づき行っている)	・継続 ・継続 ・循環器科のポリファーマシーを推進	70%	80%
	病棟薬剤師	常駐の継続、更なる病棟での活動時間の確保	常駐の継続 病棟担当者が病棟業務に集中できるよう、セントラル業務BCPの見直し	80%	90%
	薬剤管理	・院内製剤を含む薬剤の在庫管理を行っている ・無菌調整の必要なTPN、抗体製剤や抗がん剤等の混注は、薬剤部無菌室で行っている ・麻薬の受け払い出しは、専用伝票にて払い出しを行い、使用状況についても、薬剤	・継続し行う。	100%	100%
	PBPMに基づく医師代行業務	運用中のPBPM ・プライマリー科における吸入薬のデバイス選択、持参薬関連 ・外傷センターにおける手術関連の抗生剤の選択 ・乳腺外科におけるHBVスクリーニングオーダー代行 ・退院辞書法の適正化 ・入院定期処方オーダー代行	運用中のPBPMの遂行 必要に応じて、PBPMの拡大を検討	100%	100%
	栄養指導	・指導内容の充実、指導件数の増を目指す。	・さらなる指導内容の充実、指導件数の増を目指す。	90%	95%

項目		現状	R8目標	達成状況	
				令和8年3月	令和9年3月 (目標)
医師と医療関係職、医療関係職と事務職員等における役割分担	薬剤の投与量の調節	・看護師が対応済み。	・今後も継続し、スムーズな対応を心がけ	100%	100%
	静脈注射	・現状を継続し、さらに安全な静脈注射を実施する。	・今後も継続し、スムーズな対応を心がける。	100%	100%
	救急医療等における診療の優先順位の決定	・救急医療にかかわる看護師がトリアージが出来るレベルに達している。トリアージ基準表に基づき、迅速な患者対応を行なっ	・今後も継続し、スムーズな対応を心がける。	100%	100%
	患者、家族への説明	・医師との連携をさらに進める	・今後も継続し、スムーズな対応を心がけ	100%	100%
	医療機器の管理	機器管理、運用については、医師の指示の下、問題なく業務を遂行出来ている。専門業者もこちらで選定し問題なく業務を行っている。	・今後も継続し、スムーズな対応を心がける。	100%	100%
	診療放射線技師による撮影部位の確認、検査オーダーの代行入力等	医師からの依頼、オーダーミスを見つけた場合には速やかに修正に対応している。	・今後も継続し、スムーズな対応を心がける。	100%	100%
	救急救命士による救急車内の患者観察	救命士5名体制で活動中。他院への救急搬送件数が増加している。体制を維持し、平日に集中する他院への転院搬送を円滑	平日の他院への転院搬送を円滑に行なう。搬送中の患者観察が速く、正確に行なえるように、所定の訓練を行なう。	100%	100%
	救急救命士による救急外来等での経過観察の記録	経過観察記録は看護師の指導のもとで行なえている。 看護師の指導により、記録精度が高まっている。	救命士5名となるので全員が、医師・看護師の指導のもとで、経過観察記録が行える様になる。	85%	90%
	救急救命士による救急外来での受け入れ要請電話対応	受入要請の電話対応は実施している。判断が難しい要請については、看護師のフォローのもとで行なっている。	救命士5名となるので全員が受入れ要請の電話対応が出来る様になる。 判断が難しい事例については、医師・看護師の指導のもと実施できる様になる。	85%	90%
	事務的業務を行う看護補助者	緊急時に医師の指示の下、一部のみ代行人力を可とした。	緊急時対応の継続。	100%	100%
	医師と助産師との役割分担	医師診察前の、保健指導・妊娠管理対応。妊娠末期の内診、NSTによる胎児健康状態の判断等々。場合によっては医師不在で分娩終了も可能とし、医師の負担軽減に努めている。	・現状を継続し、要望等あれば可能な限り対応していく。	100%	100%
	特定行為看護師の活用	・特定行為看護師の増員とパッケージの導入により、負担軽減に貢献できている。又、グループとして特定行為オーダーリングシステムを導入。	・現状を継続し、要望等あれば可能な限り対応していく。	100%	100%
	外来縮小の取り組み	・予約優先、予約センターの対応にて患者数コントロールをしていきたい。 ・必要な他院紹介をうまく処理できてきている。	紹介重点医療機関の取得を目指し、(初診における検査実施率40%超え)クリニック等との棲み分けをより明確にし、医療資源の効率化を推進する。	75%	85%
	地域医療連携室	・他院よりの紹介対応、他院への紹介対応等問題なく行なっている。 ・紹介患者数把握、他院への一次返書にも対応	・現状を継続してゆく。	70%	85%
	予約優先外来	・順調に周知はされており、継続予定。	・周知はされており、今後も継続予定。	90%	95%
	勤務医師不足の解消	・医師対策を強化し、医師の増員を目指	・医師対策の強化。	75%	85%
	勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施	連続当直を行わない勤務計画の策定中。	・現状を継続してゆく。	100%	100%
	予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	予定手術全日に当直を行わない勤務計画の策定中。	・医師対策の強化 ・当直体制を見直しなどを行なっている。	100%	100%
	当直翌日の業務内容に対する配慮	・担当診療科はもちろん、他科医師との連携や他病院との連携等を深め、当直翌日業務をさらに配慮する体制を作成する。	・現状を継続してゆく。	100%	100%
	断続的な宿直又は日直勤務(医師)	・ER,管理当直、外傷センターについては「断続的な宿直又は日直勤務」の許可申請	・申請可能な診療科の検討を実施。	100%	100%
	育児・介護休業法 第23条第1項、同条第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の	・安心して業務に取り組める環境が整えられている。	・現状を継続してゆく。 (短時間正規雇用医師の雇用等の対策を継続)	100%	100%

令和8年3月の解説

内科常勤医師の増員が進んでおらず増員を図りたい。
退職等により当直や夜勤に対する配慮に苦慮する診療科がでてきた、こちらも医師の増員を働きかけていきたい。
タスク・シフトを実行するにあたり、多職種による委員会、会議による話し合いをもうけており、今後も随時改善予定。
また、医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進を図るべく、院内整備等を適切に行っていく。

05.1400.7
医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院
011-890-1110